

主体的に学ぶ学習法の指導

— 学習計画に基づく課題解決学習 —

福島 靖之

1. 「主体的に学ぶ」とは

(1) 研究仮説

学習指導要領には、「主体的」という言葉が多く使われている。教育を学校教育に限らず、生涯教育ととらえて考えると、自ら求めて学ぶ姿勢を育てることは、自らの能力や可能性を伸ばしていくための大切な生き方を教えることである。つまり、自己教育力の育成は、教育の中心的課題である。人から言われてする受身的な勉強や、受験のような目先のことにとらわれた場当たりの勉強ばかりしていたのでは、拘束力がなくなるとそれ以上学ぼうとしなくなるのは当然である。それでは、生きがいを持ち、主体的な生活を送ることのできる社会人として成長することは難しい。学校においては、そのことを意識しながら、子どもの指導に当たっていかなければならない。そのためには、次の三つの手だてが必要であると考え。一つは適切な学習法を身につけさせること、二つ目は自らの学習を振り返り、新たな目標を立てることができるよう自己評価力を身につけさせること、三つ目は、他を認め、共に高まろうとするゆとりある人格を形成することである。この「方法と能力と人格」が備わっていれば、自己教育力を持った人間として、子どもを育てることができるはずである。

そこで、次のような研究仮説を立て、実践に取り組むことにした。

仮 説

学習法を学び、自己評価を積み重ね、他を認める場を経験する学習がなされれば、子どもは、自ら求めて学ぶ姿勢を身につけるであろう。

この「自ら求めて学ぶ姿勢」を「主体的に学ぶ」ことと考え、授業の中で具体的な形に表して、そのパターンを定着させていこうと考えた。

(2) 複式学級における研究の意義

本学級は複式学級である。既知のように、複式学級には、通常「間接指導」というものが存在する。指導者が直接つかないこの指導過程を、子どもにいかに通じさせるかが複式教育の課題とされてきた。これを複式のメリットとしてとらえ、子どもに主体的に学ぶ力をつけさせるよい機会とするところまでは、研究が進んできている。これをもう一步進めて考えるとどうであろうか。両方の学年が直接指導を必要とせず、自分たちで学習を進めていくことができたなら、もとより間接指導も必要ないということになる。その結果、指導者には、どちらの学年にも対応できるというゆとりができる。指導者が忙しく動き回って「わたり」をしていた複式の授業はなくなり、人数が少ないだけ単式学級よりもゆとりを持って授業ができるようになる。これが複式授業の理想の姿である。教材研究の労力が大きい分、楽に授業ができなくてはならないはずである。

この意味で、主体的に学ぶ子どもを育てることは、単式学級でもそうであるが、特に複式教育にとって、必要不可欠な要件である。

習が高まっていくのである。また、音読についても、独りで練習しているだけでは、どんな読み方がよいのか、どこをどのように直したらよくなるのか、気づかないものである。友達と聞き合いながら、そのよさを認め、アドバイスをすることで、読みを高めていくことができる。

友達とかかわって学習する時には、友達のよさや友達とかかわって変わっていく自分のよさに気づき、それを評価して記録させるようにした。友達のよさをみるゆとりや自分のよさに気づく喜びが、教科学習を通して、ゆとりある人格形成に役立っていくものと考えている。

〈子どもの感想から〉

- ・ Fさんが司会としてがんばっていた。自分達でしっかりと進めていったのでよかった。
- ・ みんなしんけんに考えていた。Y君が図をかいて説明をしていたのでよく分かりました。
- ・ (自分が)よく発表できてよかったです。今度から音読もしっかり発表したいです。
- ・ 意見がすごくたくさん出てすごいなあと思いました。音読の時、もうちょっと大きな声を出せばよかったなあと思います。
- ・ ぼくは友達に「大きな声でよかった。」と言われたけど、(自分では)声が小さいと思ったので、今度はもうちょっと大きい声を出したいです。
- ・ おじいさんの声に感じをこめたり、説明にも感じをこめている人がいて、いい発表ができたと思います。自分では感じをこめてはっきりと読めたと思います。
- ・ 今日、動作をつけた人がいたり、感じをこめて読んでいる人がいたり、一人一人よいところがあった。
- ・ Fさんの22ページの発表が本当にガンによびかけているようでよかったと思います。
- ・ Fさんは司会で大きな声を出していたのでよかったです。H君も感じがこもっていたのでよかったです。ぼくも大きな声で読めてよかったです。
- ・ 私は音読をがんばったのでよかったです。
- ・ 自分の言いたいことが言えたのでよかった。
- ・ Nさんが言ったこの意見はとてもいいなあと思いました。わけは、私がどういうふうにおうかまよっていると、いいふうに言っているからです。

⑤ 教師の評価

子どもの自己評価や相互評価が関心・意欲・態度を引き出すきっかけになることが理想だが、教師からの評価や言葉がけも子どもの意識の中に大きく入ってくることも確かである。授業中の評価も大事だが、それは音声として消えていくことが多い。文字として子どもの手元に残る評価は、子どもが学習を振り返るたびに励みにしながら、次の学習へと意識を高めていくためのよい材料となる。子どものノートへの朱書きは、本当の意味で個に応じた評価であり、教師と子どもとのコミュニケーションの手段でもある。そこで、この朱書きを教師評価の重点としてできるだけ子どものノートに目を通した。以下は、ある子どものノートへの朱書きの一部である。()内は日付け)

- ・ 自分で考える問題も作っているところがよいです。(11/19)
- ・ 自分の考えたことをよく書けるようになっていきますね。力をつけていますよ。(11/22)
- ・ 自分の考えをよく出せましたね。だんだん発表の力もつけています。もっとがんばろうという気持ちがすばらしい。(11/29)
- ・ 進んで手があがっていましたね。自分の考えを出すことが、これまでM君の苦手なことでしたが、よくのりこえました。りっぱに力をつけていますよ。(11/30)
- ・ M君のやる気がみんなにも伝わっています。近ごろのがんばりはすばらしいです。(12/01)
- ・ 友だちのよさをしっかり見つけていますね。これもM君が成長していることです。声の大きさは自信の表れです。自信を持つともっと大きな声が出せます。運動をしている時、M君が大き

……元々、マイペース型の学習を好み、友達とかかわりながらの学習は得意ではない。発表に積極的になってほしいが、変容は少なかった。ただ、「先生がいなくても」という意識は、複式学級では特に必要なことであり、主体的な学習の姿勢は育っていると考えられる。

○ 自分のペースでできる方がよい。それは、これまでに習った学習を生かして自分たちでできるからです。

……友達のペースについていくのが難しい子どもであったが、この授業外の間でも、基礎学力充実のために努力している。加えて自分のペースを維持できるこの学習法は、この子どもに合っているのか、発表にも自信をつけてきている。

● どちらもいやだ。自分で課題を決めて、自分で進めていきたい。

……平素からまじめな考え方をする子どもで、思い込みが強いところがある。まだ、先生にさせられているという意識が強かったらしく、学習にもあまり乗ってこなかったため、変容は少ない。私が意図していることを誤解していたようだが、本人が希望していることは私の意図することと同じであり、方向性は間違っていないと思われる。

● 先生が進めていく学習がよい。理由は、課題が終わったらあまりすることがないから。

……個人で学習を進めていくことにまだ不安を抱いているのかも知れない。めあての持たせかたにもっと具体性が必要であった。しかし、学習に対しては、自分なりの工夫を凝らしながら、楽しんでた。ノートのまとめ方が向上している。

個によって差はあるものの、学習法を学ぶことによって、学習の方向性が明らかになり、それが自信につながっていくことが伺える。このような経験を積み重ねることによって、子どもが自ら求めて学び、自己を伸ばしていこうとする前向きな生き方を学んでいくことを期待している。

自ら求めて学ぶ姿勢を育てるために、子どもの手による学習計画はぜひ必要である。それが指導目標に沿ったものになることは難しいことであるが、学習を進める原動力となる関心・意欲・態度を生むための評価力、それを方向づけるための学習法は、身に付けさせたいことである。学習内容は自ずとそれについてくるものではないだろうか。

(2) 「感性を育む」ということに触れて

学習法の指導をすることが、子どもの主体的な学習姿勢を生み、自信を持たせる効果があることは実践から分かってきた。この主体性や自信を支えるものは何か。自分が価値あることをしている、あるいはそれをする能力があると感じているということである。そう感じるための感性がなければ、もとより子どもは自ら求めて学ぼうとはしないであろう。本学級には、知識・理解にかかわる学習には意欲的だが、表現にかかわる活動には乗り気ではない子どもがいる。これは、単に恥ずかしいという問題ではなく、表現することの価値に気付いていないということでもある。

それに気付かせるためには、まず感性を耕すことである。感性を耕すには感じ取ることや表すことを意識して経験することが必要である。それを国語科の学習の中で具体化させていかなければならない。

〈国語科の学習活動として考えられること〉

① 感じること……五感を使って（見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触る）

心で（感情・思考・連想・創造）

② 表すこと……言語で（音声・文字）

非言語で（記号・合図・絵図・動作）→言語につながるもの

③ 感じることはできるが表しにくいこと

……イメージや雰囲気（詩などの心象表現、短歌や俳句の風流・わびさび）